

## 常念岳 & 蝶ヶ岳山行報告

【山行日】2022年 5月 4(水)~6(金)

【集 合】岩舟支所 P AM 4:00

【費 用】マイカー1台 : 39,000円

【メンバー】CL:鈴木、SL:石澤 廣瀬、福島

5月4日(水) 一の沢登山口から大滝ベンチ  
を経由し、雪渓を登って常念小屋へ

岩舟支所 P4:00=南安タクシー=6:20/6:40=

一の沢登山口 7:00/7:30~大滝ベンチ 8:30/8:40

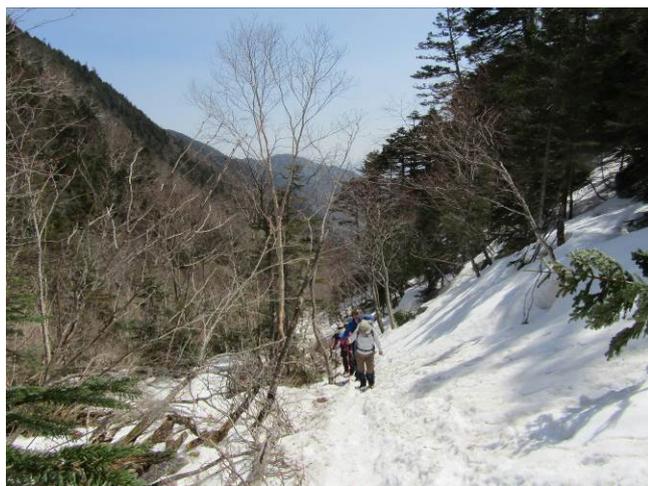
~雪渓取り付 11:30/11:50~常念平 13:20~

常念小屋 13:30



常念岳から蝶ヶ岳山行計画は、当初5月3日~5日の計画であったが、蝶ヶ岳ヒュッテの予約が取れなかった為、急遽5月4日~6日の日程で山行を行った。

4日は、岩舟支所を4時前に計画通り出発した。上信越道の佐久平PAでトイレ休憩を取り、安曇



野の南安タクシー本社に6時20分に到着、登山の準備とトイレを済ませ一の沢登山口へとタクシーで向かった。到着後、準備体操を行い7時30分に常念小屋を目指し登山を開始した。

天候は前日までのような風もなく、晴天で気温も高く絶好の登山日よりである。

一の沢登山口から大滝ベンチまでは、ほぼコースタイム通りに登って行き木々の間から雪をかぶった北アルプスを見ることができた。

進むにつれあちこちに残雪が見られるよう

になったことから、笹原沢出合の手前でアイゼンを装着し登り続けるが、笹原沢出合に着く頃には1名が体調不良で歩くスピードが遅くなり前途を危ぶまれる状況になった。前方に聳える雪の壁を登りつめないことには、常念小屋には行くことができない。

急斜面で水分を含んだ雪のため途中で待機しているのも危険と判断し、ゆっくりでいいから登り続けるようにさとし、登り続け安全な場所で待機しては登ることを繰り返した。

当初の計画より大幅に遅れたが、13時30分頃に常念乗越に到着し槍ヶ岳と北穂高の絶景を見ることができた。





到着が遅れたため夕食まで時間が短いことから男性陣は、槍ヶ岳と北穂高岳の絶景を見ながら、つまみとビールで空腹を満たした。

5時に夕食をとり周囲が寒くなったことから4人でストーブを囲み、今日の反省と明日の蝶ヶ岳の風景を想像しながら談笑し、8時に床についた。

廣瀬 記

### 5月5日(木) 常念小屋から常念岳に登頂し、蝶ヶ岳を経由して蝶ヶ岳ヒュッテまで縦走する。

常念小屋 6:15～常念岳 7:45/8:05～2592mP 10:55/11:20～蝶ヶ岳 12:55/13:20～蝶ヶ岳ヒュッテ 14:30

常念岳に登るのは2回目である。今回は夜明け前だった。暗闇に浮かぶヘッドライトの列が印象的

だった。今回は夜が明けてからになる。4:15に起き、準備をしていると明るくなってくる。小屋の窓から、日の出を見るために常念乗越に集まる人々のシルエットが見えた。安心感と緊張感が交錯する。朝食を食べ準備をして6:15に出発。常念乗越で記念撮影。ジグザグの急坂を登り1回目の休憩。

下を見るとまだまだ小屋が近い。5分位登るとソロの女性登山者が「ライチョウがいる。」と教えてくれた。半分白い。2回目の休憩を取り、ひたすら登り続けると前常念岳への分岐が現れた。息を整え二頑張り位して常念岳山頂に着いた。山頂からは大パノラマである。穂高も



全て見えた。槍ヶ岳、大喰岳、中岳、南岳、大キレット、北穂岳、涸沢岳、奥穂高岳、前穂高岳。素晴らしい。

それぞれが写真を撮り景色を十分楽しんだ後、岩場を下る。足場が危ない。下りも疲れる。1回目の休憩後、最低鞍部に着いた。

2512mPまで登り返して2回目の休憩。振り返ると常念岳の大きさをつくづく感じる。前には2592mPが見えている。ここまでは雪がなかったが2592mピークへの登りは雪が見える。岩尾根を下り雪のある樹林帯に入り



上下しながら進む。鞍部に着くとアイゼンを履いている人たちがいた。Sリーダーがツボ足で登ると言い、それに従って雪の斜面を登って行く。コツがあるが昨日に比べ慣れてきた感じはする。

急斜面で更にアップダウンがある。悪戦苦闘しているとライチョウを教えてくれた女性登山者がアイ



ゼンで登って行った。間もなく2592mPに着いた。10:55。ここで昼食になる。樹林帯の合間から槍ヶ岳が遠くに見える。穂高岳が近くになったようだ。反対側には街並みが見える。安曇野市か松本市か？いずれにしても素晴らしい景色である。

2592mPから蝶ヶ岳へ向かう。低灌木帯を越えようとすると雪がなく越えられない。アイゼンを履いて左の急斜面をトラバースすることになった。今までにない急斜面だ。なんとかトラバースし、雪のあるツガ林に入り鞍部まで行く。

安定した場所で休憩する。少し進むと登りが始まった。また急登である。20分位頑張ると雪が少なくなってきた。アイゼンを脱ぎ休憩。蝶ヶ岳への登りは急登だがアイゼンを脱ぐと足が軽く感じられる。途中でSリーダーが見える山々の説明をしてくれた。登りはやはり大変だがなんとか12:55に蝶ヶ岳に着いた。木の札が下がっている。「ヒュッテまで1.6km」と書いてあった。50分だそうだ。小高い岩の上に黄色いペイントで「TOP」とあるのでここが山頂らしい。周りを見ると360°の素晴らしい絶景である。特に北穂高岳、奥穂高岳、前穂高岳が眼前に迫ってくる。振り返れば常念岳からの縦走路が見える。進む先には「あの下がヒュッテだ。」という棒が見える。行動食を食べのんびりする。いつまでも居たい気分である。気が付くと25分もそこで過ごしていた。蝶ヶ岳からは楽しい稜線歩きとなる。多少のアップダウンはある。疲れた体には応えるが素晴らしい景色が疲れを吹き飛ばしてくる。30分程で蝶ヶ岳三角点に着き、ここでものんびりする。ここが一応蝶ヶ岳山頂というところらしい。丸い石作りの山座同定盤というものがあつた。そこへ来るとヒュッテがすぐそこに見えた。遠くで棒のように見えた物は避雷針だった。赤い屋根の蝶ヶ岳ヒュッテに入り片付け・準備をして、外テーブルでの反省会になった。穂高連峰、乗鞍岳、御岳山を見ながらの充実した時間になった。隣にいた人が「昨日は大キレットに夕日が沈み、素晴らしかったです。」と教えてくれた。更に「蝶ヶ岳ヒュッテは味噌を手作りしている。」とも



教えてくれた。反省会を終え談話室でストーブに当たっていると、ソロ女性登山者が近くを通った。

近付いて来て話をしてくれた。2592mPからのトラバースで滑落したとのこと。足を少し打ったそうだ。



少しビッコ引いていたが、無事でよかったと思う。夕食は5:00予定だが早めに呼ばれた。2677mの山小屋で「サバ」が出た。魚が食べられるなんて、と驚いた。味噌汁は赤味噌で美味しかった。これが手作り味噌なんだ、とじっくり味わった。ヒュッテは検温、マスク、消毒はもちろん、アクリルパーテーション、おかわりする時はポリエチレン手袋を使用する等、コロナ感染対策も十分配慮されていた。早めの夕食で、夕食後ゆったりした時間を過ごすことができた。

5:50頃外に出ると、夕日を見ようとしている人がたくさんいた。少しずつ沈む夕日を眺め、夕日が大きキレットに掛かり始めてからは皆さんカメラのシャッターを盛んに押していた。また素晴らしい時間を過ごすことができた。夕日は6:35に完全に沈んだ。大満足でヒュッテに入った。談話室のストーブで暖を取り、暖かい飲み物を頂き大満足で眠りに着いた。素晴らしい1日だった。

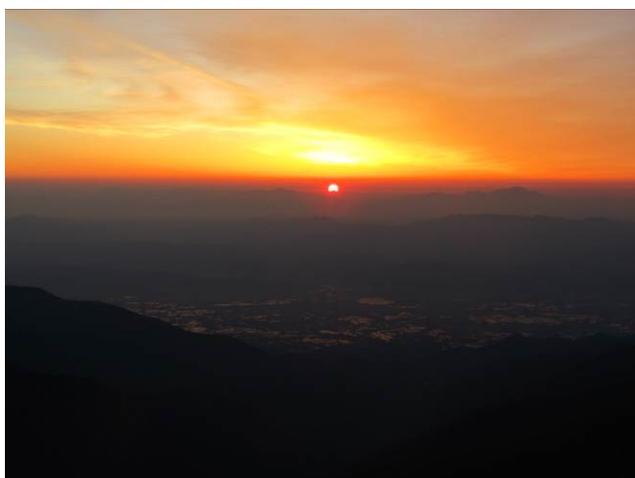


(福島 記)

**5月6日(金) 蝶ヶ岳ヒュッテからまめうち平へ三俣登山口に下山し岩舟支所へ帰着。**

蝶ヶ岳ヒュッテ 6:30～蝶ヶ岳 6:35/6:45～まめうち平 8:10/8:20～三俣ゲート 9:30/9:40～三俣P 10:00/10:15＝南安タクシー10:50/11:00＝ビレッジ安曇野 11:10/12:00＝デニーズ 12:10/12:45＝岩舟支所 P15:40

4時過ぎに起床し、日の出を見るべく薄明るい外に出る。もう大勢の人達が集まっている。



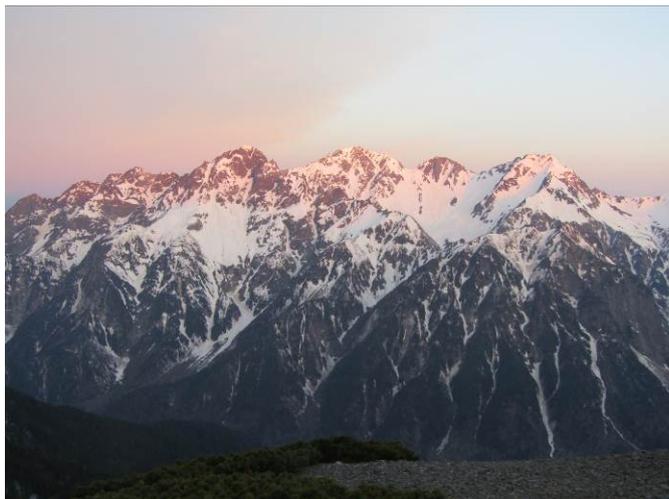
少々肌寒いが待つこと10分、いよいよ陽が昇ってきた。

天気は快晴。さすが3000m級の山頂からのご来光はスケールが違う。遠く地平線より赤く輝きながら少しずつゆっくり昇ってくる。陽が昇ったら今度は反対側へと移動する。北アルプスの山々を少しずつ照らしてゆく。残雪がうっすらと赤みを帯び、やがて光り輝いてきて穂高連峰がモルゲンロートに染まる。

とても清々しく神々しい景色を堪能した。

朝食を済ませ、まずは蝶ヶ岳山頂に登る。

乗鞍から穂高連峰・槍ヶ岳、そしてひととき大きな常念岳の見納めだ。思い思いに記念写真を撮ったら、6時30分いよいよ下山開始する。



溶けた雪は夜のうちに締り、アイゼンが

ザクザクと刺さる。

急降下・ジグザグ・トラバースと進み、樹林帯に差し掛かると雪が腐ってきた。

フラットフットイングで滑らないよう一歩一歩しっかり進む。

三俣から登ってきた方々とすれ違う。

単独山行の方が多いのには驚いた。

私達は会長のご尽力：宿やタクシーの手配にはじまり、コースの選択・時間配分、

雪上歩行の指導や励ましのお陰で、安全に今ここに居られるのである。感謝！！

まめうち平で休息。若干コースタイムを過ぎてしまったが、もうここまで来ればひと安心。アイゼンを外し、あとは普通の下り、足取りも軽くスピードも上々。

「ゴジラのような木」まで下ると、残り1km。

沢沿いの道には、早春の高山植物がたくさん咲いている。キクザキイチゲや二輪草、ハシドコロやネコノメソウなどに癒されながら気持ちよく歩く。

タクシーの到着より早く着き一息入れながら待つ。



ビレッジ安曇野で汗と疲れを流す。

名残惜しみながら車窓より山々を眺め、「また夏来るからね」と帰路に就く。

高速の渋滞もなく、予定より早く岩舟支所に着く。

三人とも、残雪の北アルプスは初めてでしたが、三日間とも風もなく穏やかな良い天気にも恵まれ、空気も澄み、終始槍・穂高連峰の絶景を眺めながらの稜線歩きは素晴らしかったです。

蝶ヶ岳ヒュッテのベンチで、槍・穂高連峰

を眺めながらの宴は最高でした。若干の波乱はありましたが、無事完登でき、皆で感動を共有できたとても思い出に残る山行でした。

by 石澤